

測定する能力			
論理的言語力	論理的読解力A	論理的読解力B	論理的思考力
日本語を論理的に扱う能力。一文の構造を論理的につかまえたり、「ことばのつながり」、指示語・接続語などを論理的に扱う力。	文章を論理的に読む力。文章を論理的に読む趣旨を的確に把握する力。小説などを客観的に読む力。	文章構造を論理的に解説する力。文と文との論理的関係、段落と段落との論理的関係、文章全体の論理構造を把握する力。	文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に説明する力。おもに記述力・論述力。
			他者に向かって、論理的に話す力。論理的に思考し、自分の考えを論理的に書く力。

《問題Ⅰ》

論理的言語力

(40点)

第一問

■解答 (8点)

イ・カ

◆解説

イ 「勉強しなければならぬ」の主語は「私」で、省略されています。

カ 「大変だ」の主語は「私」で、省略されています。

第二問

■解答 (6点)

ウ

◆解説

「わたしは」→「手伝っている」が、主語と述語の関係。

「毎日」→「手伝っている」、「お皿」→「あらいを」→「手伝っている」と、つながっています。

第三問

■解答 (各4点)

- (1) エ (2) ウ (3) エ

◆解説

助詞の問題。

(1) 比較する時の「むしろ」。「AよりむしろBがいい」場合に用います。

(2) 逆接の接続助詞「けど」。

(3) 「だけ」「のみ」という意味の「ばかり」。

第四問

■解答 (各4点)

- (1) イ (2) オ

第二問

■解答 (6点)

ひばり(ひばりさん)

◆解説

うずのしゅげとひばりとの会話であることに注意。「来年は僕はここへ巣をつくりますよ」から、ひばりだと分かります。

第三問

■解答 (各4点)

- (a) ア (b) オ

◆解説

(a) うずのしゅげは風を待っていたのです。風に乗って飛んで行かなければならないのですから。直後の「まず向こうのポプラをひるがえし」からも、風が吹いてきたのだと分かります。

(b) からだがばらばらになる時をたとえて、「(b)がくだけて散る」と表現しています。くだけるのは、「石」か「星」しかありませんが、直後の「銀毛がまつしろに光り」から、「星」が答え。

第四問

■解答 (各2点)

- ア × イ ○ ウ ○ エ ×
- オ ○

◆解説

ア 「もし来年もいるようだったら来年は僕はここへ巣をつくりますよ」と仮定の下に述べているので、×。

エ 別れぎわに歌ったのはひばりの方なので、×。

《問題Ⅱ》

論理的読解力A

(40点)

第一問

■解答 (各4点)

- (1) エ (2) イ (3) ウ (4) ア

◆解説

会話はだれとだれのものかを考えます。

(1) ひばりの問いに対する、うずのしゅげの返事です。直前の「遠いところへ行きますよ」につながるのは、エしかありません。

(2) うずのしゅげの返事で、飛んでいくのがいやではない理由が来るので、イ。

(3) うずのしゅげの返事で、直前の「飛んだってどこへ行ったって野原はお日さんのひかりでいっぱいですよ」につながるのは、ウ。

(4) うずのしゅげが飛んでいく時に感謝の言葉を述べるのは、お日さんに対して。

第五問

■解答 (6点)

才能

◆解説

自分にはないと思いきこんでいるものは、「才能」。

《問題Ⅲ》 論理的思考力 (40点)

第一問

■解答 (各4点)

- (1) 二億年 (2) 生きている化石
- (3) 天然記念物

◆解説

話題はカプトガニです。「最大の注目すべき点」とあることに注意。何が注目すべきかというところ、「二億年の昔から生き続けていることなので、「二億年」が(1)の答え。そのため、何と言われているのかというところ、「生きている化石」で、これが(2)の答えとなります。何に指定されたのかというと、「天然記念物に指定されています」とあるので、「天然記念物」が(3)の答え。

第二問

■解答 (各4点)

- (1) きつと (2) まるで

◆解説

(1) 「きつと」↓「記入しなさい」とはつながりません。
 (2) 「まるで」は「くようだ」とつながります。しかし、この一文の中には「まるで」とつながる言葉がありません。

第三問

■解答 (4点)

からだ

◆解説

「木々の葉はすっかり落ちてしまった」となるので、「からだ」が不必要。

第四問

■解答 (8点)

明日は苦手な国語の試験がある。
 (明日は国語の苦手な試験がある。)

◆解説

「試験がある」が共通。他の要素の「明日は」「苦手な」「国語の」を付け加えます。

第五問

■解答 (8点)

今朝、ぼくはかさを持って家を出たが、雨はふらなかつたので(から・ため)結局かさは必要なくなつてしまった。

◆解説

「しかし」「だから」を接続助詞に変えることができたかどうか。

《問題Ⅳ》 論理的読解力B (40点)

第一問

■解答 (8点)

生きる・守られる

◆解説

②に、『生きる』『守られる』という子どもの権利がおかされているとあります。

第二問

■解答 (8点)

④

◆解説

④に「欧米おぐべいの子どもたちに比べて」とあります。

第三問

■解答 (8点)

②

◆解説

「ところが」は逆接です。①で子どもの四つの権利の話をして、②で日本ではそれが守られていないと、話の流れが逆転しているのです。ここは「たとえば」でなく、逆接の「ところが」でなければいけません。

第四問

■解答 (8点)

ア

◆解説

⑤が最終結論で、「日本の子どもたちはもっと「わがまま」であつてほしいのです」と結んでいます。

第五問

■解答 (8点)

工

◆解説

題名とは、筆者の主張を語句の形にしたもの。筆者の主張は⑤の「わがまま」自身らしく「生きる」こと。

《問題Ⅴ》 論理的表現力 (40点)

■解答 (各10点)

先に食べる理由

・先に食べないとだれかにとられてしまうから。

・おなががいっぱいで食べられなくなるから。

後に食べる理由

・苦手なものを食べたことを忘れるから。
 ・最後においしかったと思いたいから。

◆解説

先に食べる理由としては、A君の「弟に何度もとられてしまいました」と、C子の「嫌いなものから順番に食べていきました。すると、おなががいっぱいになって、大好きなグラタンでさえ、おいしいとは思いませんでした」。

後に食べる理由としては、B子の「苦手なグリーンピースを最初に食べて、後に好きなハンバーグを食べました」↓「幸せな気分になりました」と、D君の「最後に好きなものを食べ、ああ、おいしかったと言つて終わりたい」。

後は、これを字数条件を満たした、正確な一文にできるかどうか。